

【第3編 資産運用 14-6】農産物商品の価格変動要因

～コメや大豆も商品取引の対象になる！～

(1)なぜ農産物が先物取引されるのか？

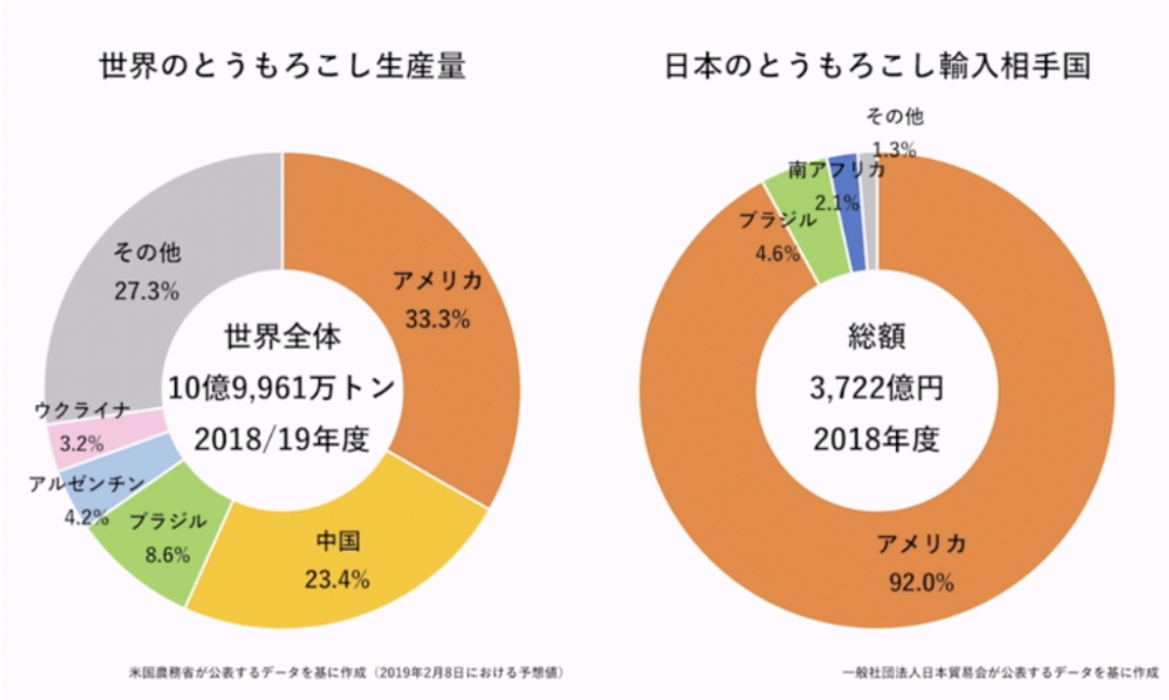


(2)とうもろこしの特徴

→とうもろこし (イネ科トウモロコシ属: Corn)

- ①紀元前 5000 年頃 メソアメリカでテオシントから栽培
- ②1492 年 コロンブスがヨーロッパに持ち帰った
→その後、フランス、イタリア、トルコなどに伝播
- ③1579 年 (天正 7 年) 日本にも伝来し、栽培がスタート
- ④小麦 コメと並ぶ世界三大穀物のひとつで用途も多い
→日本では、家畜飼料としての利用がとても多い

(3)世界全体の 3 分の 1 はアメリカ産



(4)とうもろこし価格変動の要因は？

月	年間サイクル		天候ととうもろこしへの影響		USDA発表	相場のポイント	
			良い	悪い			
1		需要期	十分な降雨 土壌水分を補完	少雨 土壌水分が不足	1月 最終生産高（前年）	需給相場	南米・南ア天候相場
2					3月 作付意向面積		作付意向面積が少ないと、「作付促し相場」となる
3							
4	作付け	作付日和 早期作付け 適温・適雨 発芽生育を促す	長雨 作付け遅れ 乾燥・低温 発芽・生育不良 高温・乾燥 生育・受粉不良	6月 作付面積		天候相場	
5							
6							
7	受粉	端境期	晴天・周期的降雨 生育・受粉良好	早霜・多雨 成熟不良・霜被害	8月 生産高	需給相場	天気相場も一段落
8	成熟				9月 生産高		霜・低温予報に注意
9		収穫	最大 需要期	収穫日和 早期収穫	10月 生産高		ハーベスト・プレッシャー 輸出需要が活発化
10					11月 生産高		ポスト・ハーベスト・ラリー 五大湖など凍結閉鎖
11							
12			充分な積雪 来春の水分確保	暖冬・雪不足 来春の水分不足			

(5)大豆の特徴

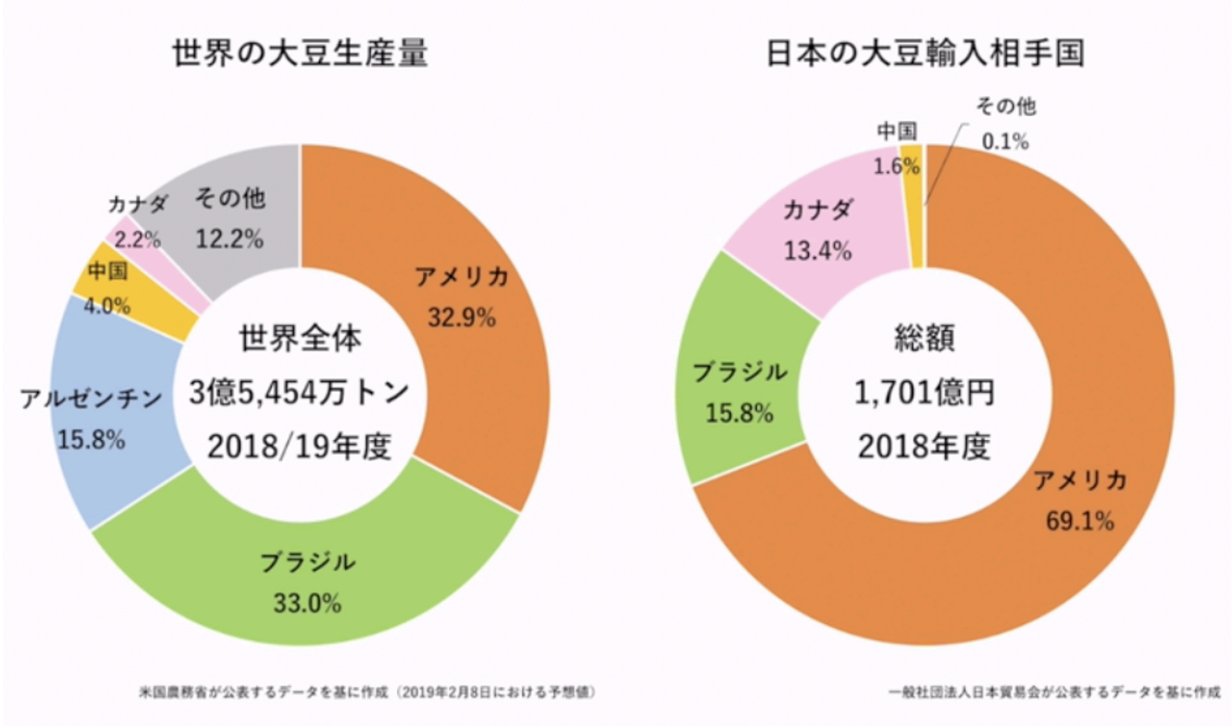
→大豆(マメ科ダイズ属:Soybean)

- ①原産地は中国で、約 5000 年前から栽培されていた
- ②約 2000 年前 中国から日本に伝来した
- ③1900 年代初頭 欧米でも大豆の搾油が工業化を受け普及
- ④世界全体で見た場合、食用油としての用途が最大

→国産大豆は食品用としての適性が高い

→コストは高いが、食品メーカーからの需要は高い

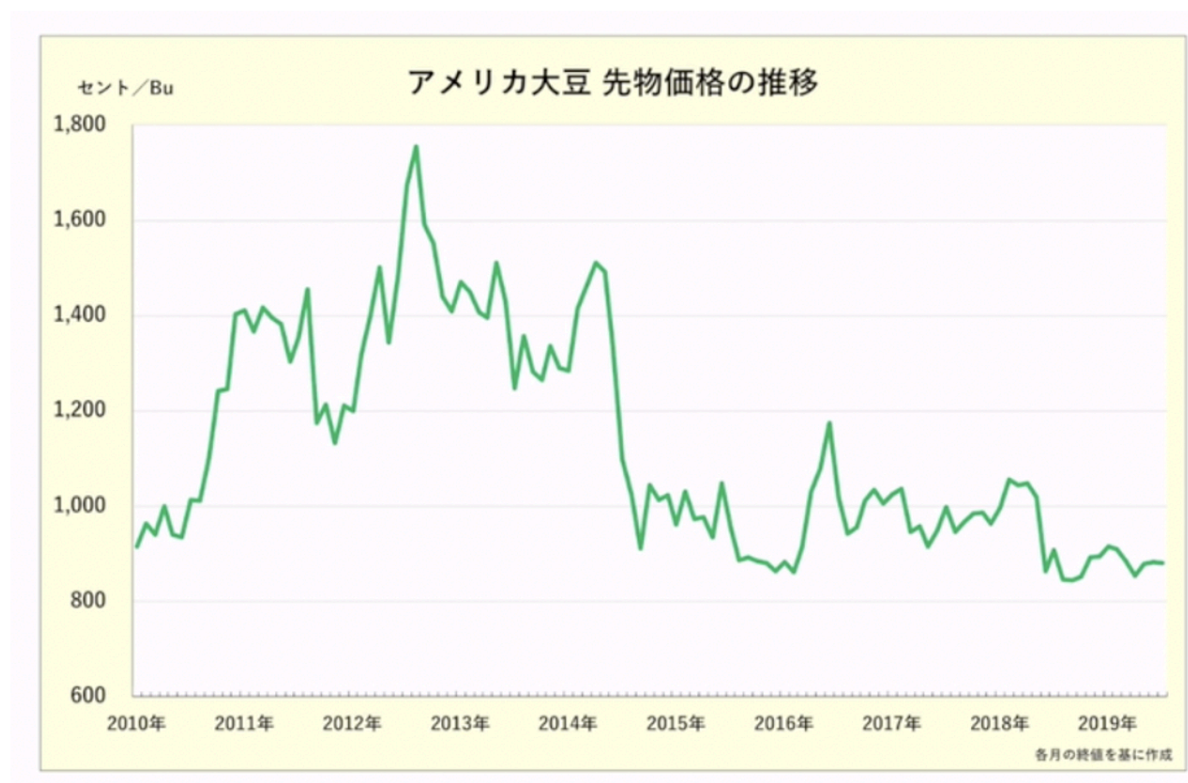
(6)3 カ国で世界全体の 8 割を生産



(7)大豆の価格変動要因は？

月	年間サイクル		天候と大豆への影響		USDA発表	相場のポイント		
			良い	悪い				
1		需要期	充分な降雨 土壌水分を補完	少雨 土壌水分が不足	1月 最終生産高（前年）	需給相場	南米天候相場 南米は大豆収穫へ 作付意向面積が少ないと、「作付促し相場」となる	
2					3月 作付意向面積		南米大豆出回り時期	
3							作付動向次第で、「青田ほめ」や「凶作」人気が台頭	
4							天気予報に一喜一憂 天気が良好であれば農作人気が台頭	
5	作付け	端境期	作付日和 早期作付け	長雨 作付け遅れ	6月 作付面積	天候相場	作付動向次第で、「青田ほめ」や「凶作」人気が台頭	
6			適温・適雨 発芽生育を促す	乾燥・低温 発芽・生育不良			天気相場も一段落 霜・低温予報に注意	
7	開花 着ザヤ		晴天・周期的降雨 生育・受粉・着ザヤ良好	高温・乾燥 生育・受粉・着ザヤ不良	8月 生産高		ハーベスト・プレッシャー 輸出需要が活発化	
8			晴天 成熟順調および含油量の向上	早霜・多雨 成熟不良・霜被害	9月 生産高		ポスト・ハーベスト・ラリー	
9	収穫	最大 需要期	収穫日和 早期収穫	長雨 収穫遅れ	10月 生産高	需給相場	五大湖など凍結閉鎖	
10			充分な積雪 来春の水分確保	寒波・降雪 収穫放棄	11月 生産高			
11				暖冬・雪不足 来春の水分不足				
12								

(8)過去における大豆価格の動きを見てみると...



※1Bu(ブッシェル)＝27.2155kg